

# 寄書

UDC 627(282.2)

## アメリカ河情視察記

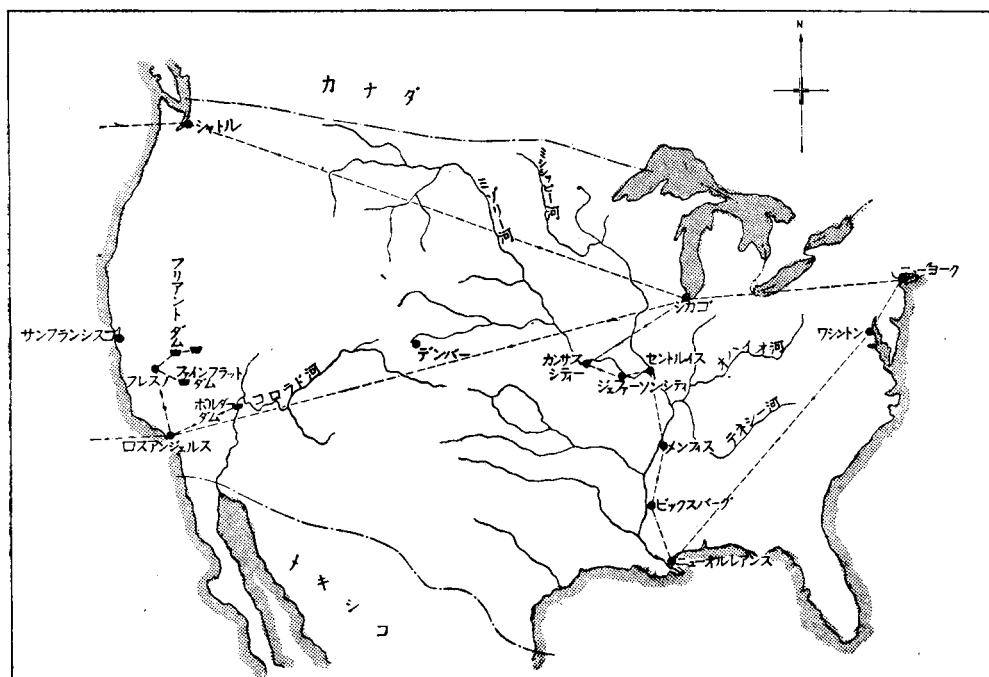
正員 伊藤 剛\*

私が27年8月末から米国に出かけたのは、シカゴ市に開催された国際灌漑排水会議に出席のためであつたが、ちょうどこの時シカゴ市において技術百年祭が開かれたのである。実は技術百年祭をアメリカで開くにあたり、この頃開かれる各国の各種の学会をシカゴ市で開くよう要請し技術百年祭に出席する会員の数をできるだけ多くしようと取計らつたのである。

シカゴ市はアメリカでもホテル設備の最も完備した所であるからここを会場としたものであろう。そのため私も国際灌漑排水会議に出席するかたわら技術百年祭の各種講演会や催しに出席した。国際灌漑排水会議はインドの主催で開かれることになつたもので、27年9月のは第3回にあたる。第1回は日本からは出席なく、第2回は26年1月インドで開かれ、その時は日本

から建設省の伊藤令二、矢野勝正、佐藤清一氏等、その他農林省、資源委員会からも出席した。今回は農林省農地局計画部の清野技術課長と私だけ、技術百年祭にはこの他東京大学の福田武雄教授、建設省の村幸雄技官、その他国鉄からも出席されたが江藤施設局長はヨーロッパからの飛行機の席がとれなかつたためか見えなかつた。国際灌漑排水会議は日本語でよむと農業の土地改良事業の会議のように聞えるが、実は河川事業と土地改良事業とをあわせたような事業を対象としている。その会議ではもつぱら会費とか来年の開催地とかを決めるだけで研究発表はすべて技術百年祭の講演会の方に譲つていた。技術百年祭は各学会の講演会を主としてその他社交的の会合、視察、余興等に分れ9月2日から13日にわたりシカゴ市内各所のホテルのホ

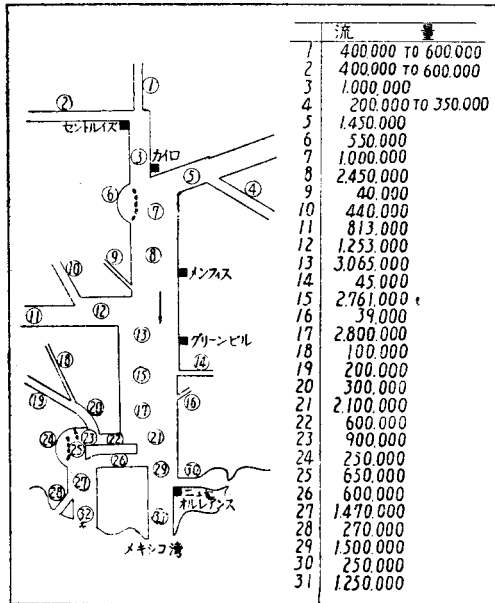
図-1 アメリカ旅行行程図



ールで開かれた。いずれも会費を徴収し、これが相当高いので私は専門に関係深い河川、コンクリート、広

\* 建設省九州地方建設局長

図-2 ミシシッピー計画洪水流量表(個単位)



用気象、水文学等の講演会場をわたり歩いた。いずれもトーキー等を利用するで割合にわかりよかつたと思つた。各国の出席者も夫人同伴で多数出席したが、ブラジルを始め相当金をかけて講演の準備をしていて、この機会に世界各国に自分の国の宣伝をし、アメリカからドルを借りる下地をつくるように努めているのが察せられた。日本の代表は出発間際まで大蔵省の費用が果して出るかどうかかわからず、また手続きに手間どりアタフタと馳せ参じた連中ばかりであるから講演の用意等できているはずはなく、社交的の会合にすらほとんど出席できなかつた有様であつた。

私は講演会出席後アメリカ各地の河川事業を視察した。シカゴ市からワシントン市に行く途中ニューヨーク市に3~4日滞在しNew Washington Bridge やハドソン河の流況を視察した。それからワシントンで5日ほど滞在して陸軍省工兵隊本部や内務省開発局に行き行程の打合せをし、さらに國務省に行き視察の許可を貰いそれから有名な Greyhound Bus Line でミシシッピー河口の New Orleans まで行つた。夜8時にワシントンを出発し Bus に2晩をすごし、途中テネシーの峡谷を経て3日目の朝 New Orleans 市に到着した。この Bus は立派な坦々たる Highway を通るので速度も日本の急行くらい速く、ゆれることも少なく途中2時間ごとぐらいに約20分間停車し、この停車中食事をしたり便所に行つたりする。Bus の料金は汽車よりも何割か安いようである。New Orleans はミシシッピーに沿うた古くから開けた港町であ

るが、南部特有の黒人を差別して低賃金で使える所だから白人は非常に富んでいるように見えた。最初の日、町にお祭りがあつて屋は宗教団体の行進があつて、海軍の司令官のような姿をした騎士や、中学生、女学生の音楽行進があつた。ちょうど真夏の暑さなのに御苦労千万にも汗だくであつた。夜は犬の行進で大小各種の各自の愛犬を老幼男女が得意げに連れて行列をつくつて繁華街を行進するのであるが、若い婦人が白い狐のような犬をつれ自分もそれにマッチした服装をして歩いていた。

この町には川ぶちに陸軍工兵隊地方工事部があるが、長官、次長は軍人で技術系統は文官である。

この地方一帯は日本に最初にやつてきた第8軍の出身地であるから将校でも技師でもまた町の人でも日本にきたことのある人が非常に多かつた。Bonné Carré の分水堰やミシシッピーの浚渫、護岸工事等を見せて貰つた。私は日本出発当時から一張羅の背広服でネクタイを締めていたので現場を歩くと目くらまばかりの熱さで大弱りであつた。ここに4日ほど滞在してまた例の Bus で半日行程の Vicksburg に行つた。人口 40,000 くらい小さな市であるが南北戦争の最後の戦場であるので有名で、その郊外に陸軍工兵隊の Waterways Experiment Station がある。丘の上の50町歩くらいの敷地の中でミシシッピーのショートカットをした場合の流況変化の実験を始め、ダムの溢流、護岸の効果の実験等をやつていた。護岸はミシシッピー下流ではちよつと北海道の石狩川のように足を洗掘されて起る河岸の崩壊が多いのである。そこで畳1畳よりもやや小さいコンクリートの畳を前後左右ワイヤーロープでつなぎ、河岸を適当に均してから覆い、ワイヤーロープの一端は堤防天端附近にアンカーをとつて結びつける。

実験の結果、コンクリートの表面を粗にすべきだということを見つけたようである。ミシシッピーのような緩流ではどんな方法で洪水観測をするかと尋ねたところ、案外流速が早く洪水時の表面流速は 2 m/sec くらいであり、潮汐の影響のない所まで遡り船でカレントメーターで測つているとの答であつた。Vicksburg の町は小さな町であるがいかにも美しくここでも日本を訪れた人が多く途中の Bus の中でもホテルでも話しかけられた。前の New Orleans で案内された自動車にも、この町のタクシーでもみな短波の無電機を備え、時どき本部と連絡をとつていた。

Vicksburg を朝立ち途中ミシシッピー沿岸の Memphis という町で数時間を過した。ここは前に安芸坂一氏が立寄られ綺麗な町だとの話をきいていたからで

ある。それからまたバスの夜行にのり St. Louis に朝到着した。この附近のミシシッピーの流況を視察し、次は汽車でやはり川沿いの Jefferson City という、Vicksburg 程度の市に行つた。州庁の所在地でこの附近のミシシッピー河には杭打水制が施行されていた。この附近から上流は 26, 27 両年にわたり春水の大出水のあつたところで州庁に行き出水の状況を尋ね資料を貰つた。水利委員会の技師に会つたのであるが出水当時州庁が中心となり水害対策委員会が開かれ陸軍工兵隊地方工事部の幹部は非常なつるし上げに会い、予算がたりなくて十分できないと苦しい答弁をしたとのことである。総合貯水池を電力に使うのをやめて、洪水専用に使えとの意見が強かつたと云つていた。ここに 1 日滞在して晩 Kansas City に行つた。New Orleans と同様陸軍工兵隊地方工事部の所在地でその機構や出水の時の水防、破堤の原因などを聞いたり見たりした。破堤の原因は溢流によるものや市の下水管の吐口からの破堤だつたとのことで特に後者は木曾川支流長良川の破堤の原因とそつくりであつた。出水時の水防作業は市の責任であるが始めの 2~3 日は市は救護作業に忙しく工兵隊が代つてやつたそうである。この間小麦袋に土砂を詰め人力の手送りで堤防天端に積み上げた。そして水がひく頃、各地から土工機械や材料が到着したのでこれらを使いだしたとのことである。ここで築堤作業をやっている所を見たが化物のような大きなトレーラーで土を運び、これをブルトーカーで堤防の形に均らしその上を Sheeped Roller で輾圧する。硬く輾圧した後トレーラーが平気で通れるくらいよく均らしていた。Kansas City で 2 泊してシカゴに到着した。ちよつと息抜きのためである。ワシントン出発以来約 2 週間というものが熱かつたのと言も日本語をしやべれなかつたので非常に疲れた。シカゴは寒波襲来で寒いくらいであつた。谷口三郎氏の幼友達である寺尾氏のお世話になつた。

シカゴで 3 日間休息してから飛行機でロスアンゼルスについた。日本出発直前紹介されていた在留邦人徳永氏の出迎えをうけた。毎晩の夕食、ホテル代まですつかり御厄介になり日曜にはハイキング、視察旅行には行く先々の紹介等至れり尽せりの親切であつた。カリフォルニア州の視察はもつぱらダム工事でロスアンゼルスとサンフランシスコとのちよつと中間にフレズノという人口 200 000 くらいの農業都市があり、この二世 James Kubota 氏のお宅に御厄介になり昼間はダム視察、朝夕は附近の農園や工場視察、夜は散

歩、ここでも J. Kubota 氏に非常にお世話になつた。8 月に附近に大地震があり家の倒壊等があつたそうであるが、その視察は珍らしくないからと云つてお断りした。ダム工事は型枠が頑丈で立派なのとケーブルクレーンの運転が上手なのに感心した。その他セメント小運搬に Air Slide 式を使つているのが珍らしく、パイプレーターは日本のダム工事と同様監督がいても 2 台くらいをかけたりにかけなかつたりする程度であつた。フレズノからまたロスアンゼルスに戻りまた Bus でボールダーダムの視察に行つた。バクチ公認で有名な Las Vegas から遊覧バスで行つたが偶然にも 2 人の婦人とつれになつた。いずれも Las Vegas 駅で汽車を途中下車しているうちに汽車が出てしまつた止むなく晩までこの辺を見物しようとする婦人連で一人は若い日本婦人、一人はアメリカ南部からきた老婦人である。若い方は Bus 中で話しかけられて始めて日本婦人だとわかつたくらいのかなかなかの美人でワシントンの南、テネシー附近のある病院に 3 年間留学し、これから日本に帰るところだそうである。途中日本の再軍備に対する状況、パンパン娘のことを質問され、私の政府委員のごとき答弁に、攻撃されて大弱り、誠に純心だと感銘した。老婦人の方は忘れ物の名人で旅行の途中外套や荷物などを置き忘れ、いま持つているのは手さげのハンドバックのみである。汽車の切符もどこかに置き忘れ、私に尋ねる有様である。帰りの飛行機は何にののかと云うので Pan American だと答えると North West Line にしろというのである。何故かと聞いたところ自分が Pan American に乗つたら窓の下に翼があつてよく外の景色が見られなかつたが North West に乗つた時はよく景色が見られたからだと答えた。しかし後から考えるとこの忠告はあつていた。ホノルルを出発して約 1 時間 Pan American はプロペラの故障で引返し、5 時間ばかり出発が遅れてしまつた。さてボールダーダムの視察は上述の二婦人達と行をともしたわけであるが内容は皆様のすでに御承知のとおりで、文献や写真とそつくりの立派な世紀の工事だと思つた。これからまたロスアンゼルスに引返し徳永氏のお世話になつてしばらく滞在して帰国の途につき途中ホノルルに立寄つた。ここでは前に総司令部にいた平島氏に案内されて市の地下水くみ上げ施設やワイキキの風景を賞することができた。そのうち大雷雨となり全市停電となつたのでホウホウの姿で飛行場に送つて貰い 10 月 16 日無事羽田に着いた次第である。